

イ 主 催

福島県教育委員会、福島県中学校教育研究会、関係市町村教育委員会

ウ 会場・期日

- 地区 各地区ごとに設定（16会場）7月～8月
- 県 白河市立白河中央中学校

5 特別活動

(1) 昭和59年度指導の重点

特別活動は、学校や教師の創意工夫が特に期待される教育活動である。各学校においては、特別活動の教育的意義や価値を正しく認識し、自校の教育目標の達成を目指しながら、実態に即して創意に富んだ教育活動が展開されるよう工夫する必要がある。このため次の事項を重点として設定した。

- ① 集団活動をより充実するため、実態に即した創意ある指導計画に改善する。
- ② 児童生徒による自主的、実践的な活動が充実するよう指導法の改善につとめる。
- ③ 各内容ごとに指導の重点をあげ、その充実を図る。

(2) 主な研修及び行事

① 県小学校教育研究会特別活動部会

ア 主 催

県教育委員会、県小学校教育研究会、開催市町村教育委員会

イ 研究主題

自発的・自治的な実践活動への助言

ウ 県研究協議会

- 期日 昭和59年10月16日～17日
- 会場 船引町立船引小学校

② 県中学校教育研究会特別活動部会

ア 主 催

県教育委員会、県中学校教育研究会、開催市町村教育委員会

イ 研究主題

自主的、自治的活動を定着させる特別活動

ウ 県研究協議会

- 期日 昭和59年10月3日～4日
- 会場 三春町立三春中学校

6 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

生徒指導は、すべての児童生徒を対象とし、一人一人の人格の価値を尊重し、個性、能力の伸長を図りながら、社会的、国民的な資質や行動を高めることを目的として行われる教育の機能であることを認識し、次の諸点に重点を置いて指導した。

- 教師の共通理解を深め、指導体制を確立する。
- 実態に即した指導計画に改善する。
- 生徒理解を一層充実させ、生徒指導に当たる。
- 教育相談を充実する。
- 学業指導を強化充実する。
- 児童生徒の事故防止に努める。

① 文部省・県指定生徒指導研究推進校の研究と実践

ア いわき市立久之浜中学校（校長 吉田 泉洲）

- 指 定 文部省 昭和58年度～59年度
- 研究主題 生徒ひとりひとりが望ましい人間関係をはぐくむ生徒指導

イ 二本松市立二本松第三中学校（校長 樽井 和雄）

- 指 定 文部省 昭和58年度～59年度
- 研究主題 基本的な生活態度を育てる生徒指導

ウ 会津若松市立第四中学校（校長 浅沼 恒昭）

- 指 定 文部省 昭和59年度～60年度
- 研究主題 意欲的に取り組む生徒の育成をめざして

エ 石川郡平田村立蓬田中学校（校長 吾妻 幹廣）

- 指 定 県教育委員会 昭和59年度～60年度
- 研究主題 主体的に行動できる生徒の育成

② 県指定生徒指導研究推進地区の研究と実践

ア 矢祭地区（小学校5校、中学校1校）

- 指 定 県教委 昭和59年度～60年度
- 研究主題 実践意欲を高める生徒指導

イ 塩川地区（小学校4校、中学校1校）

- 指 定 県教委 昭和59年度～60年度
- 研究主題 小・中学校及び地域社会との提携を深めながら、学校の特色を生かした生徒指導の徹底をはかるには、どうしたらよいか。

ウ 相馬地区（小学校7校、中学校2校）

- 指 定 県教委 昭和59年度～60年度
- 研究主題 学校、家庭、地域社会との関連を図りながら、基本的行動様式を確立し、自主的に意欲をもって実践する児童生徒の育成

③ 生徒指導研修会

ア 目 的

小・中学校の教頭に対し、生徒指導についての研修を管内ごとに行い、生徒指導の充実、非行事故防止等の指導の徹底を図る。

イ 期 日 各教育事務所毎に年2回実施

ウ 対 象 小・中学校教頭

④ 生徒指導推進会議

ア 文部省主催

ア 目 的

児童生徒の問題行動の状況にかんがみ、中学生を中心とする生徒指導上の諸問題について、全国の生徒指導担当者等が一堂に会し、情報交換・研究協議等を行い共通理解を深め、生徒指導の一層の推進に資する。

イ 期 日 昭和59年12月4日(火)～5日(水)

ウ 会 場 東京農林年金会館

エ 参 加 者

県教育庁義務教育課長	箭 内 洪一郎
県教育庁義務教育課指導主事	二 瓶 洋 一
相馬市教育委員会主幹	佐久間 正
矢祭町立東館小学校長	小 峰 孟
福島県PTA連合会長	国 井 庄 八

(イ) 福島県教育委員会主催

ア 目 的